

くすのき

校訓「かしこく やさしく たくましく そしてふるさとを愛する子どもに」



西合志第一小学校
学校だより 第38号
文責 校長 西村羊治
令和6年9月20日

新聞づくりのプロからのアドバイス！

西合志第一小学校創立百五十周年記念式典に向けて、子ども達が動き始めています。5・6年生は、合生の歴史や文化について総合的な学習の時間を活用し、学習を進めています。第一小学校の前身である弘生学校が150年前に誕生したこと、初代校長の横田五城（いそき）氏は37年も務めていたこと、そこで学んだ工藤左一と平田一十が黒松に合志義塾を開塾したこと、等についてグループごとに調べています。また、実際に合志義塾の跡地に行って現地の視察をしたり、隅倉先生から詳しく説明を聞いたりもしました。

今回は、今まで調べたことを壁新聞の形にまとめるのために、専門的なご指南をいただきました。講師として熊本日日新聞のクロスメディア局から、木村さんと林田さんに来ていただき、伝えたいことが読む人にわかりやすいようにすることを学びました。具体的には、5W1Hを明らかにすること、実際に現地に行くこと、詳しい人にインタビューすること、記事にする場合一文が長くないこと等、大切なことを教えていただきました。5・6年生は、真剣な眼差しで、説明をしっかりと聞いていました。私は、担任の吉田教諭と辻建成教諭の指導のもと、意欲的に取り組んでいる5・6年生を見るととても頼もしくなります。当日の発表が楽しみです。



熊日の木村さんと林田さんからの説明

菊池支援学校3年生との交流！

17日（火）3校時、本校の4年生11人が、菊池支援学校の3年生と交流学習を行いました。まず、はじめの言葉、次にお互いの自己紹介、そして学校クイズ、特に〇×クイズは盛り上がりしました。お互いがそれぞれの教室で移動せずにできるのがオンライン交流のメリットです。ただ、画像が乱れたり音声聞きづらかったりするデメリットもありました。また、直接会うのではなく画面を通してなので、やはり距離を感じます。私は33年前に支援学校に1年間ですが勤務しました。特別支援学校の免許は持っていませんが、直接子ども達と触れ合うことで知ることや学ぶことがたくさんありました。30年以上も前のことですが、私にとっての貴重な体験で、その経験は今の教育理念にもつながっています。4年生の皆さんにも今回や今後の交流で、特別な支援の必要な子ども達のことをもっと知って、自分の感性を磨き、心を成長させて欲しいと思います。

私の好きなテレビ番組に、実話をもとにしたNHKの「家族だから愛したんじゃない、愛したのが家族だった」があります。家族の中の長女が主人公ですが、お父さんは過労で亡くなり、お母さんは病気で下半身麻痺になり、おばあちゃんは認知症になり、弟はダウン症です。それを想像するだけで、大変でかわいそうな家族、と思う人がいると思います。確かに大変なんです。でもそこには家族の現実を受け入れるやさしさがあり、家族の実態から逃げずに向き合うたくましさがあり、何よりも家族同士の愛がすごいんです。考えさせられるものがたくさんあります。障がいを持たされた人を差別する人がいます。逆に差別しないで手を差し伸べる人がいます。西合志第一小のみんなには、障がいを持たされた人を差別せずに、手を差し伸べるのできる大人になって欲しいと願っています。いろいろなことを体験し、知り、相手の立場に立てる人として成長していくことを願っています。



オンラインで菊池支援学校との交流